

平成28年度病害虫発生予報第9号(12月予報)

- <今月のコラム>
- ・次期収穫に向けたマンゴー炭疽病の防除対策
 - ・かぼちゃ細菌性病害の防除対策について
 - ・防鳥ネット設置によるレタスのシロガシラ被害対策

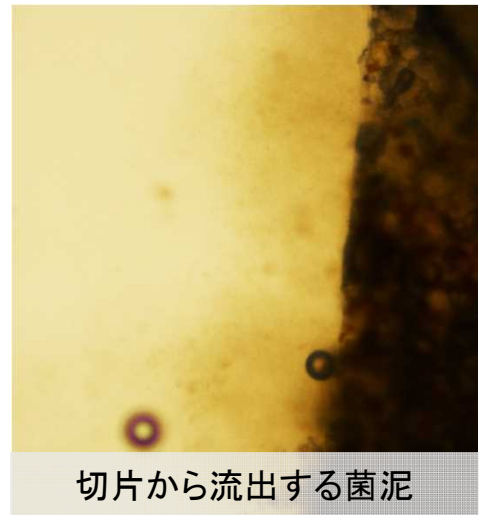
今月のトピックス

斑点細菌病 (ピーマン、トウガラシ) 学名 : *Xanthomonas campestris* pv *vesicatoria*

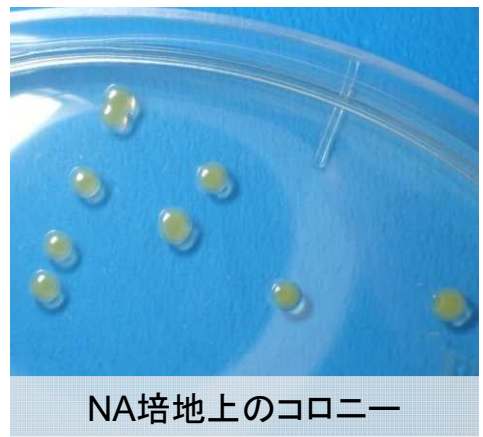


発病株

褐色の斑点と不整形の病斑



切片から流出する菌泥



NA培地上のコロニー

生態と被害

本病は細菌性の病害で、主に葉、葉柄、茎に発病する。葉では、はじめ葉裏に水浸状でやや隆起した病斑を生じ、葉表では黄色を呈する。これがのちに褐色の斑点や不整形の病斑となり、周囲が水浸状になる。茎や果梗にも同様の褐色斑点を生ずる。また、若い果実にも発病することもある。雨が多いと発生が多くなり、発病葉は落葉しやすくなる。病原菌はグラム陰性の好気性菌で、トマトにも寄生し同様の病斑を形成する。生育適温は27～30℃で、15℃以下または30℃以上ではほとんど感染しない。

種子伝染するため消毒済みの種子を使用し、栽培終了後は土壌消毒を行う。発病後は防除が困難であるため予防散布を行い、多湿にならないよう湿度管理を行う。被害残さは発生源となるため、施設外へ持ち出し処分する。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>